

環境喰人の会 学習会資料 ～哺乳類調査結果（2012/11/11）～

1. 調査概要

(1) 調査日時

調査は平成 24 年 11 月 11 日(日)に実施した。

(2) 調査範囲

調査範囲は八曾自然休養林キャンプ場近辺とした。(図-1 参照)

(3) 調査方法

調査方法は目撃法及びフィールドサイン法とし、調査範囲内を任意に踏査し、目視により哺乳類の個体やフィールドサインを確認した。

2. 調査結果

(1) 現地調査で確認された種

現地調査の結果、イノシシのものと思われる足跡及びヌタ場、テンのものと思われるフンが確認された。

表-1 現地調査による確認種

分類群	目名	科名	種名	確認状況	備考
哺乳類	ネコ	イタチ	テン	フン	
	ウシ	イノシシ	イノシシ	足跡	

(3) 考察

調査の結果、2 種の哺乳類が確認された。いずれも、愛知県の山地は自然分布域となっており、普通に見られる種であると考えられる。

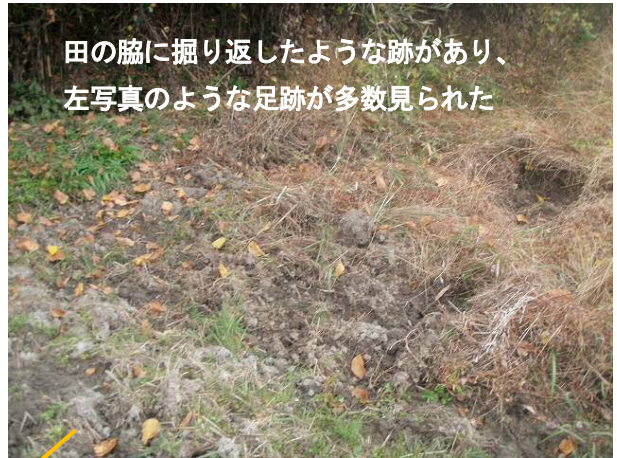
イノシシは、田の脇の耕作地を荒らした形跡が見られ、その周辺に多数の足跡が見られた。これらの状況から、周辺の田畑で被害を及ぼしている可能性が考えられる。

テンは、道路脇で本種のものと思われるフンが確認された。テンのフンは、植物の種子を多く含むこと等が特徴であり、また比較的目立つところにあり、縄張りを主張するサインポストとして使われているようである。

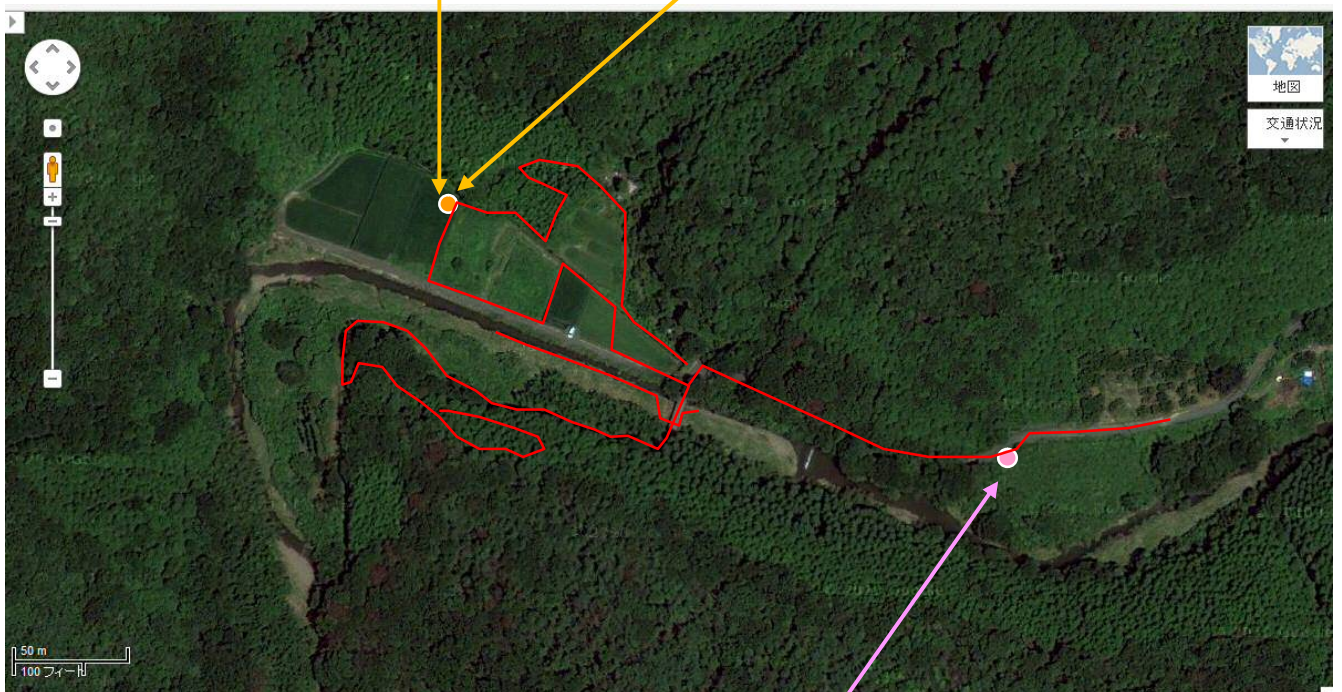
現地調査ではこれら 2 種の哺乳類のみの確認であったが、調査地域周辺は、河川の水辺環境、周辺の樹林環境に加え、耕作地等の草地環境もみられることから、複数回の調査を様々な季節に実施することで、多様な哺乳類の生息が確認される可能性が考えられる。

生息が想定される種としては、アカネズミ等のネズミ類、ヒミズ等のモグラ類、タヌキやイタチ等の中型の哺乳類があげられる。

また、特定外来生物であるアライグマが生息している可能性も考えられる。(アライグマの生息の始まりは、愛知県犬山市にある日本モンキーパークが 1961 年に飼育し始めたアライグマのうち 12 頭が翌年に脱走したことであるとされている。)



田の脇に掘り返したような跡があり、
左写真のような足跡が多数見られた



植物の種子が多く、テンのフンである
と思われる

- 凡例
- 踏査ルート
 - 〈確認状況〉
 - イノシシ（足跡）
 - テン（フン）

※Google map を用いて作成

図-1 調査範囲と確認状況等

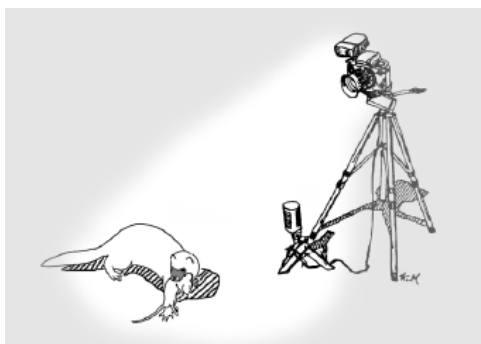
3. 今後、実施が望まれる哺乳類の調査方法について

(1) センサーカメラによる無人撮影

(※参考：平成18年度版 河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル【河川版】)

夜行性の哺乳類の確認には、無人撮影法が有効である。無人撮影装置は、哺乳類が頻りに往来しているような「けもの道」あるいは小径に設置し、カメラの視野内（センサーの範囲内）にさつまあげや魚肉ソーセージ等の餌を置く。

1 晩以上設置するのが一般的であるが、夕方早い時間に設置すると、餌をねらうカラスばかりを撮影してしまうこともある。また、設置場所によってはカメラの盗難に注意が必要である。



センサーカメラによる撮影

(出典：平成18年度版 河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル【河川版】)

(平成18年、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)



実際のカメラの設置イメージ